2025年度

事　業　概　要

令和7年　4月

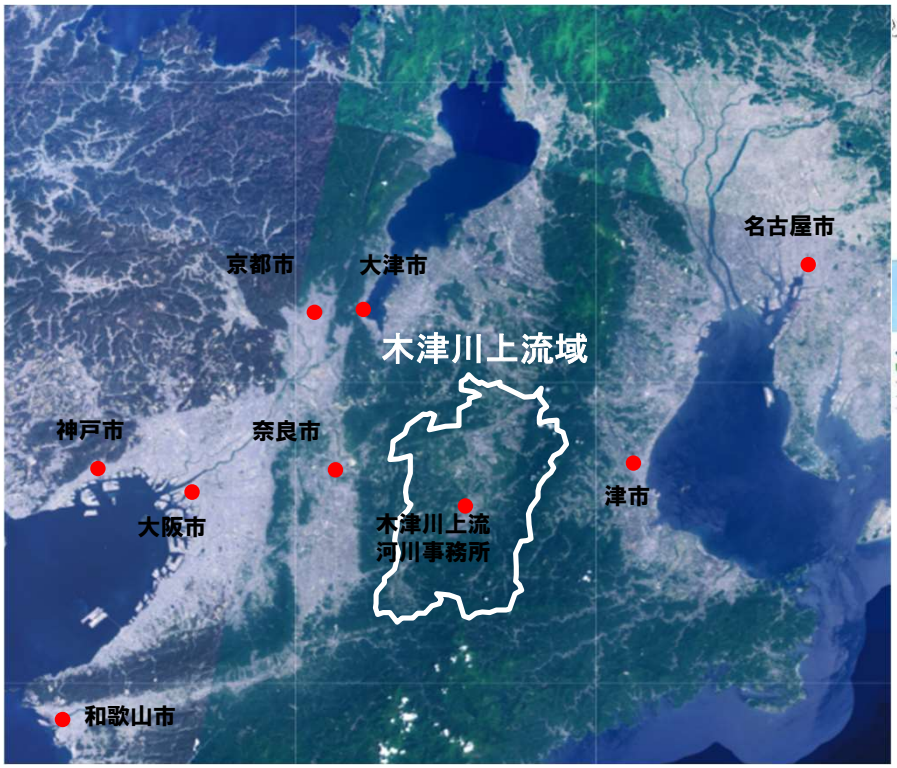
国土交通省　近畿地方整備局
木津川上流河川事務所

目次

⊙ 流域の概要---------- 3
⊙ 繰り返された洪水の歴史（主な洪水）---------- 5
⊙ 淀川水系の洪水特性を活かした治水システム---------- 6
⊙ 流域治水プロジェクト---------- 7
⊙ 名張地区の治水対策---------- 8
⊙ 上野遊水地計画---------- 10
⊙ 安全・安心を持続的に確保するための取り組み---------- 12
⊙ 総合土砂管理、河川環境保全や防災に関する啓発活動---------- 13
⊙ 減災対策協議会、河川を介した魅力の再発見、DX---------- 14
⊙ 情報発信(ソフト対策）の取り組み 15
⊙ 木津川上流河川事務所 沿革---------- 16
⊙ 2025年度　木津川上流河川事務所 組織図---------- 17
⊙ 2025年度　木津川上流河川事務所 予算---------- 18
⊙ TEC-FORCE、連絡先（アクセス）---------- 20

流域の概要

木津川上流域は、木津川筋と名張川筋の2つの流域に分けられ、三重県、京都府、奈良県の3府県にまたがった流域で、太古より歴史文化が数多く残る地域です。



淀川流域図

河川名	流域面積（km2）	流域比率(%)
琵琶湖	3,848	46.7
宇治川	506	6.1
木津川上流	1,308	15.9
木津川下流	288	3.5
桂川	1,100	13.3
淀川下流	807	9.8
猪名川	383	4.6
計	8,240	100

【幹川流路延長】

河川		内訳(km)			
			※1	※2	※3
木津川	133 km	木津川	37	52	25.00
		服部川		27	4.00
		柘植川	0	17	2.20
		前深瀬川	0		4.17 (4.17)
		布目川			5.00 (5.00)
		その他支川			3.03 (3.03)
名張川	114 km	名張川	0	53	37.30 (18.60)
		宇陀川		33	18.92 (5.98)
		青蓮寺川	0	28	4.90 (3.50)
		その他支川	0		5.94 (5.94)
合計	247 km				110.46 (46.22)

※1:笠置橋下流※2:笠置橋上流

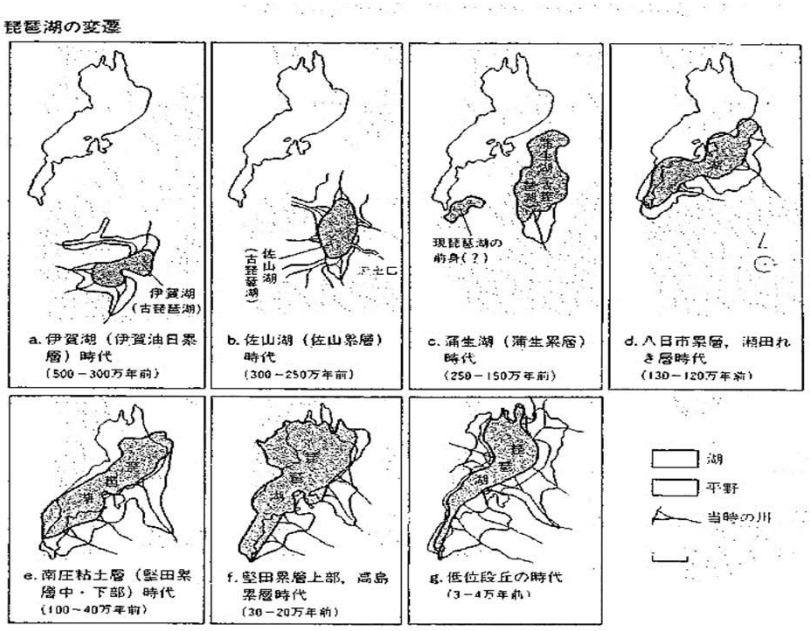
※3:直轄管理延長 （)ダム区間

大阪と名古屋の真ん中に位置する木津川上流域

大和国に隣接する伊賀の地は、古代から都と伊勢及び東海地方とを結ぶ重要な交通位置を占めていた。
初瀬街道は、大和国から宇陀川・名張川に沿って名張に至り、阿保～伊勢路～青山峠を通って伊勢国に至る道で、現在の国道165号にあたる。この道は、持統天皇の伊勢行幸(692)をはじめ、後世には参宮街道北道として頻繁に利用された。

伊賀上野に存在していた琵琶湖

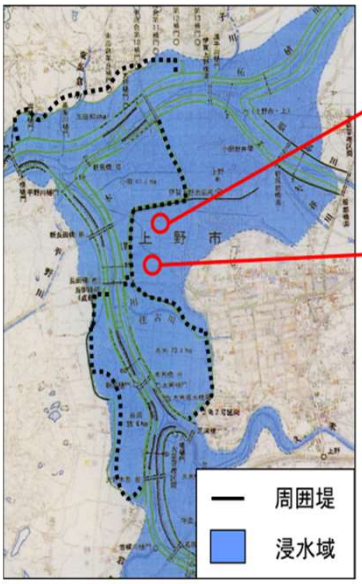
琵琶湖は、約５００万年前に三重県の伊賀上野地域で誕生し、北西方向に約１００km移動して約１３０万年前に現在の琵琶湖近くまで移動したとされている。
約５００万年前に伊賀盆地で誕生した湖は、「古琵琶湖」とよばれている。
４８０～４４０万年前には、その中心が現在の三重県伊賀市(旧阿山郡大山田村)に存在した。末期の古琵琶湖（蒲生湖）は、約１３０万年前に鈴鹿山脈から流出してくる砂礫（八日市るい瘦）によって埋められ消滅したとされている。



繰り返された洪水の歴史（主な洪水）

木津川の上野盆地では岩倉峡による堰き上げにより、歴史的にも幾多の水害が被害を及ぼし、昭和28年台風13号は伊賀地域で戦後最大の被害となりました。
名張川では昭和34年9月の台風15号（伊勢湾台風）で、名張市街全域が濁水の中に没するなど、甚大な被害を受けました。

■昭和28年台風13号

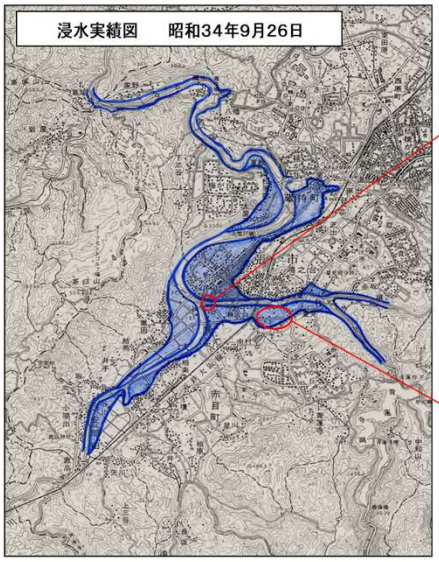


上野市小田町

鍵屋の辻

浸水面積	540ha
浸水戸数	200戸
湛水量	1,610万m³

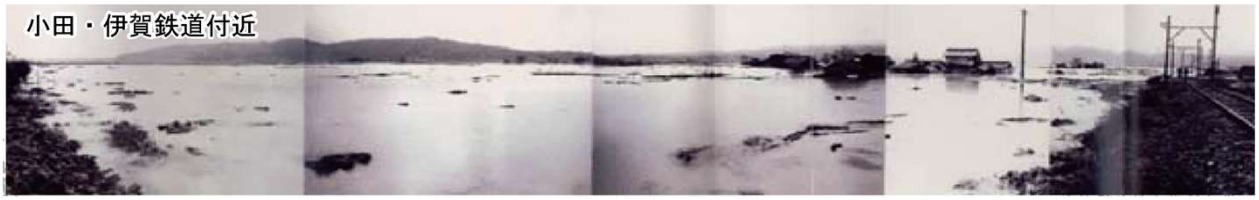
■昭和34年伊勢湾台風



名張市新町橋流出

名張市夏見

■昭和36年10月前線豪雨



小田・伊賀鉄道付近

長田地区

（近年の水害）

■平成25年台風18号

伊賀市三田

伊賀市で浸水被害が発生

■平成29年台風21号

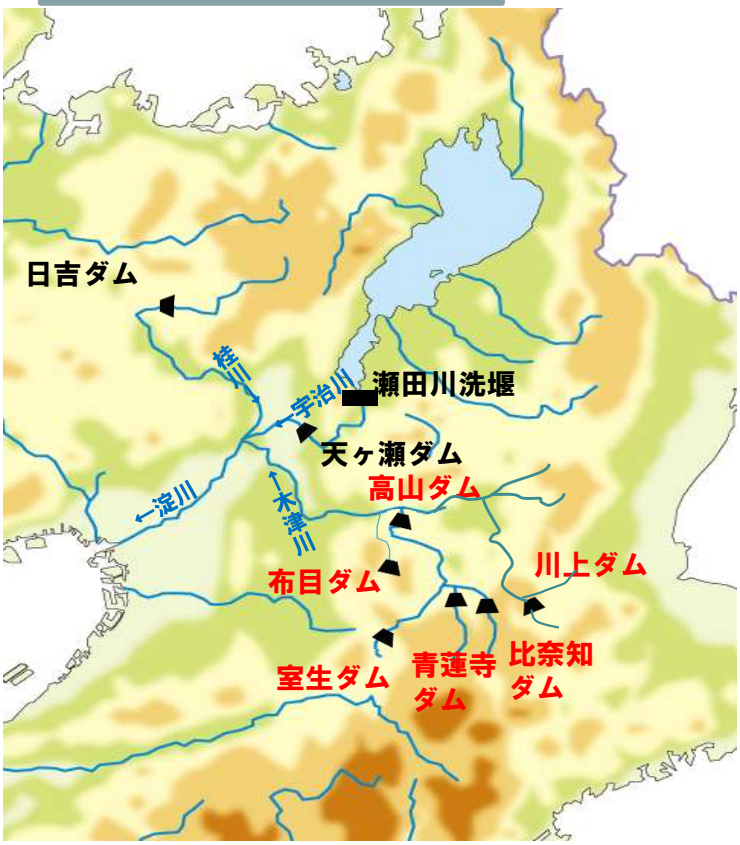
名張川新町橋上流

名張市で浸水被害が発生

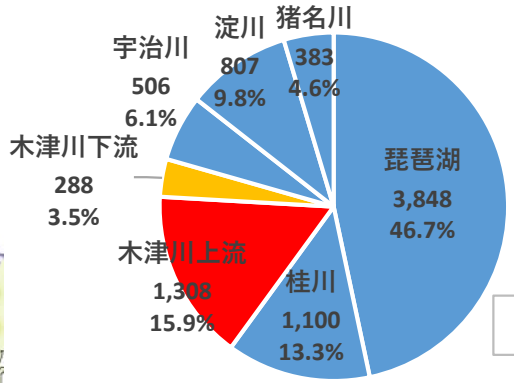
淀川水系の洪水特性を活かした治水システム

1953年（昭和28年）の台風13号による大洪水が契機となり、淀川水系一貫治水対策として高山ダムが建設され、さらに1959年（昭和34年）の台風15号（伊勢湾台風）による出水を契機に、青蓮寺ダム、室生ダムが建設されました。その後も、大出水が相次ぎ被害が発生し、また人口、資産が増大したこともあり、布目ダム、比奈知ダム及び川上ダムを建設することとなりました。
これらのダム群では木津川のみならず、淀川の洪水の軽減を行っています。

淀川水系の洪水調節施設

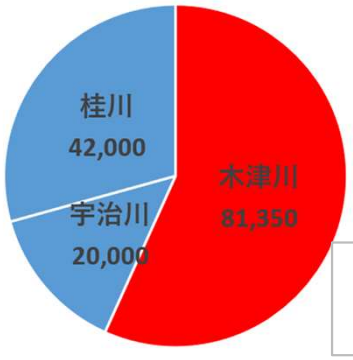


淀川流域における各淀川の流域面積



全体面積　8,240km2

淀川流域における既設ダムの治水容量



全体量：143,350千m3
ダムは直轄及び公団
琵琶湖を除く

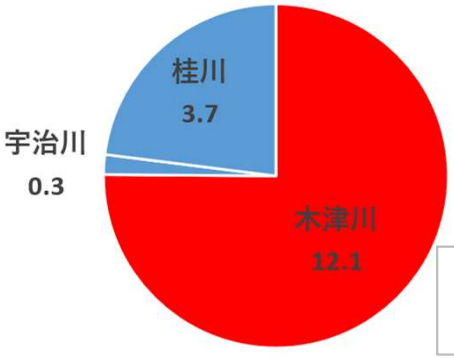
昭和30年代以降の経済発展、京阪神地区および周辺地域の人口集中や生活水準の向上による都市用水の需要増大に対応するため、名張川や木津川沿線のかんがい用水の供給を行っています。

水道用水開発計画及び供給区域図

水道用水供給区域（市町村）　既存ダム

木津川ダム総合管理所パンフレットより引用

淀川流域における既設ダムの水資源開発量



全体量：16.1m3/s
ダムは直轄及び公団
琵琶湖を除く

流域治水プロジェクト2．0

- ○ 気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換。
- ○ 治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進める。
- ○ 豪雨が頻発・激甚化する中、市街地の浸水被害を防ぐ内水被害軽減対策としてポンプ場の整備、ため池や田んぼ等の活用に取り組む。
- ○ 大規模な浸水被害から人命や資産を守るため、森林保全等の流出抑制策に取り組む。

■流域治水の具体的な取組 (※抜粋 淀川流域治水協議会（木津川上流分会））令和7年3月時点

流域治水

現状・課題

- ➢ 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
  現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- ➢ グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- ➢ インフラDX等の技術の進展

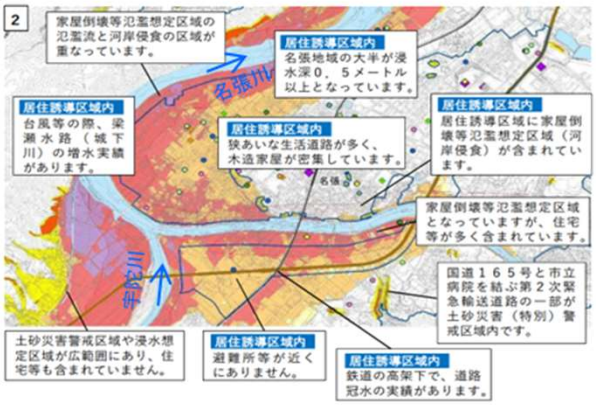
必要な対応

- ➢ 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- ➢ あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

被害対象を減少させるための対策

名張立地適正化計画(防災指針含む)の策定【名張市】

パブリックコメントを実施し、議会、都市計画審議会での報告を行い、令和6年7月31日に策定・公表。ハザードエリア内の居住誘導区域の設定に伴い防災指針を定めて災害リスクの回避や除去・低減に取り組むとともに市民一人ひとりが防災意識の高いまちを構築していく



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

名張川改修【木津川上流河川事務所】

河道拡幅や掘削等により、流下能力の向上を図り、治水安全度を向上させる。

木津川(指定区間)大規模特定河川事業【三重県】

町並川地下バイパスの整備【奈良県】

地下河川(バイパス河川)整備により、豪雨による浸水被害を軽減させる。

砂防堰堤【紀伊山系砂防事務所】

急傾斜地崩壊対策事業【三重県】

砂防堰堤、擁壁工等の整備により、土砂災害の被害を軽減させる。

既設ダムの機能維持【水資源機構】

川上ダムの代替容量を利用し、各ダムの貯水位を低下させ堆積土砂の陸上掘削を行うことにより、ライフサイクルコストを低減する。

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

治水、防災に関する出前講座の実施【宇陀市、紀伊山系砂防】

河川災害や土砂災害の種類、メカニズム、ハザードマップでの避難所の確認を通じて自助力向上を図る。

伊賀線第一陸閘の操作訓練を実施【伊賀市、伊賀鉄道、木津川上流河川】

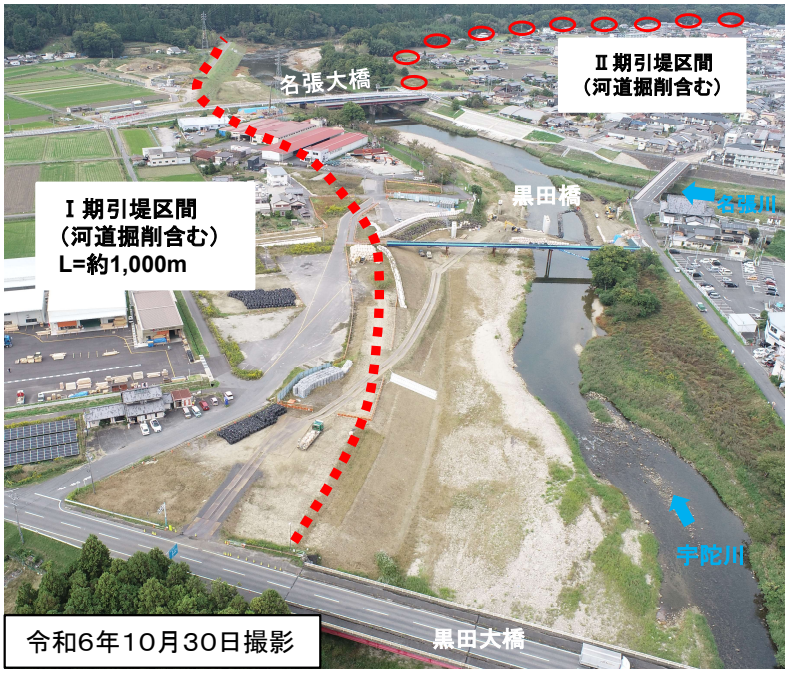
国土交通省と伊賀市の連携を深めることを目的に毎年実施。災害発生時に迅速な対応ができる体制を確立。

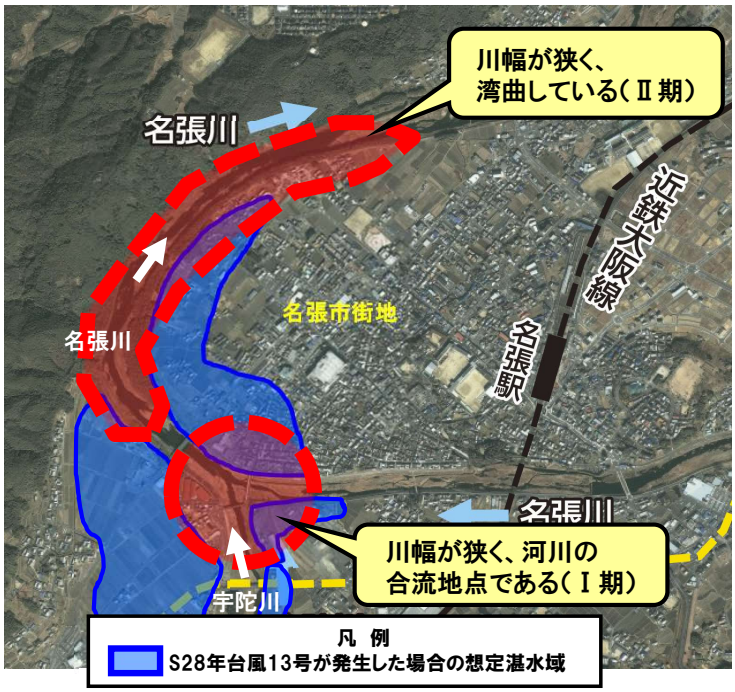
伊賀市マイ・タイムライン講習会の開催【伊賀市、木津川上流河川】

流域治水の意識、重要性に対する流域関係者の理解と協力を求める働きかけを実施。

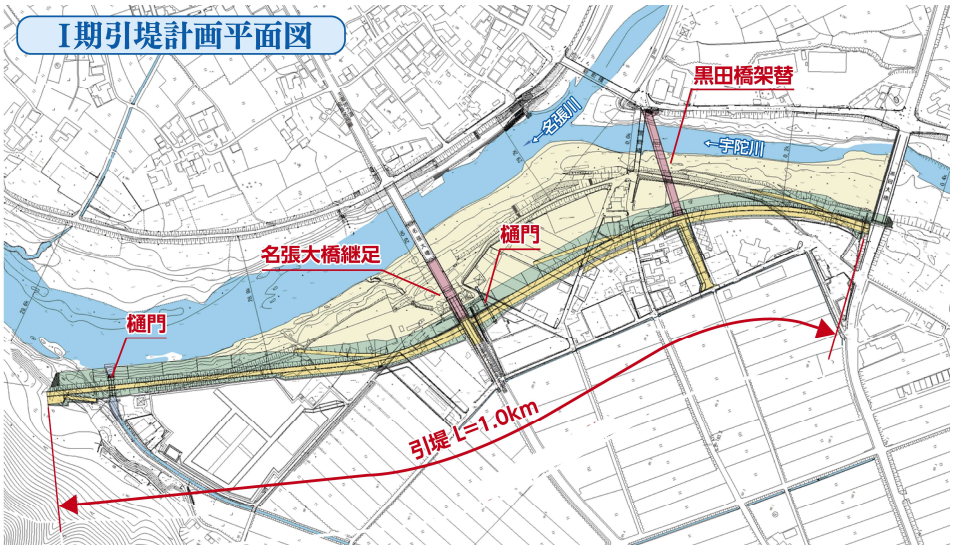
名張地区の治水対策

名張川引堤及び河道掘削を推進し、木津川上流域ダム群による洪水調節と河道流量との役割分担を見直すことにより、大規模洪水時の流域の安全度を向上させます。



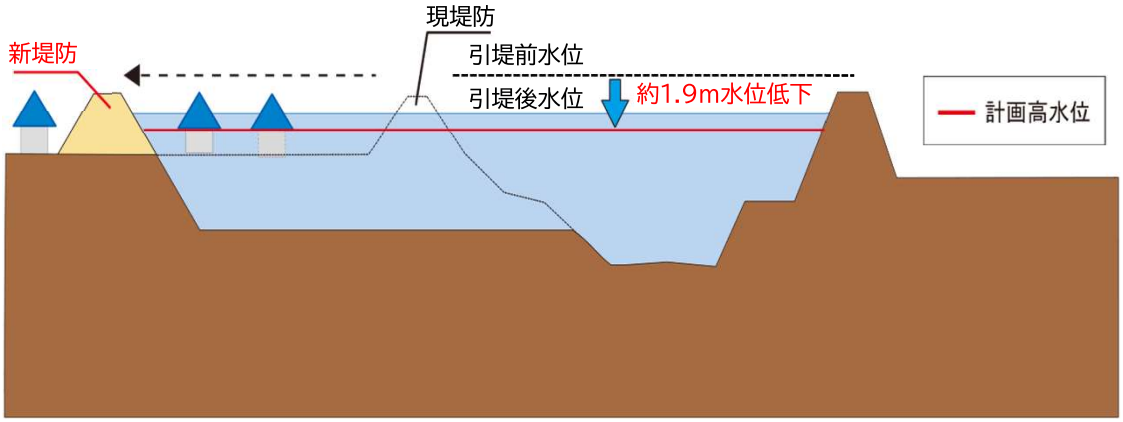


築堤盛土	約3万m³
河道掘削	約15万m³
樋門	2箇所
名張大橋継足	1橋
黒田橋架替	1橋



■事業効果

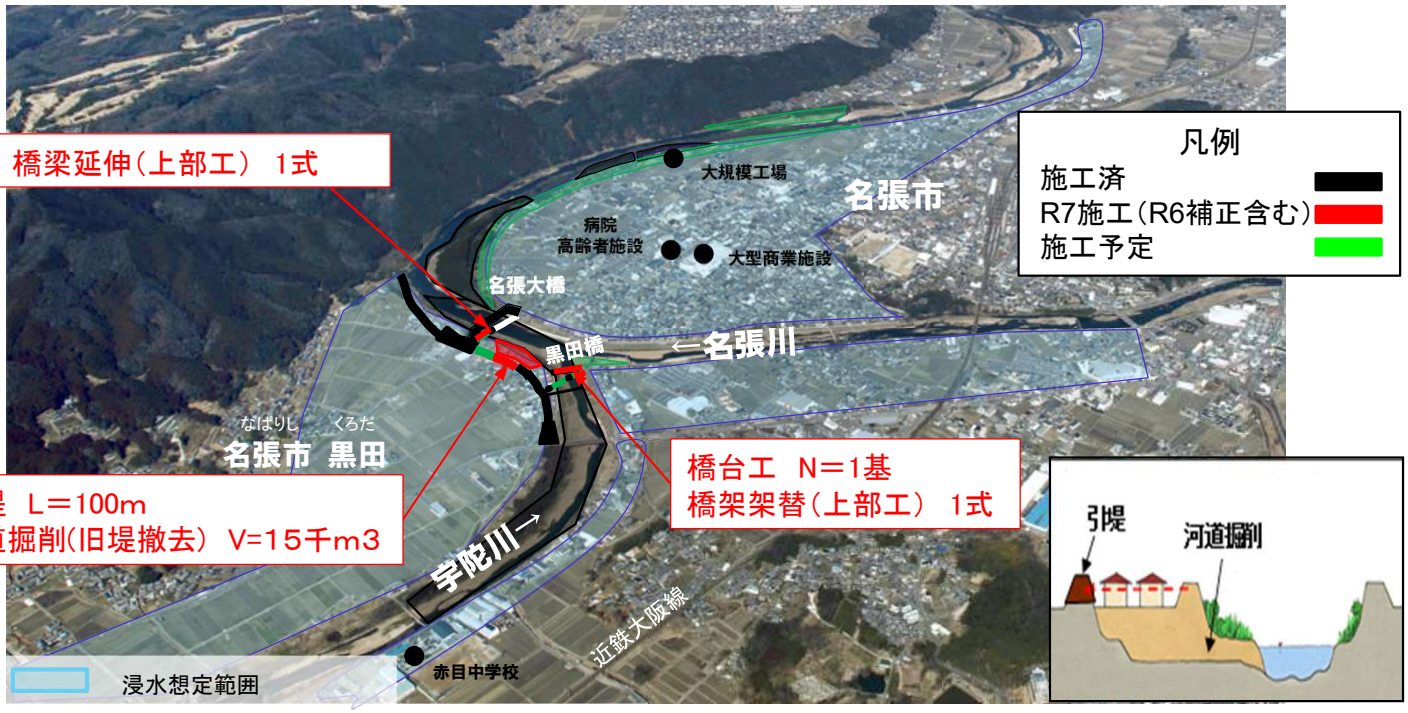
河川整備計画で目標としている昭和28年台風13号洪水×1.1倍の降水規模に対して、名張川・宇陀川合流点付近の水位を約1.9m低下させ、堤防からの越水を回避し、名張市街地の浸水被害を軽減します。



※引堤計画図とかわまち計画図は、現時点の計画であり、今後詳細設計等を実施することにより内容を変更する場合があります。

■令和7年度　名張川　名張かわまちづくり一体型浸水対策　事業予定箇所

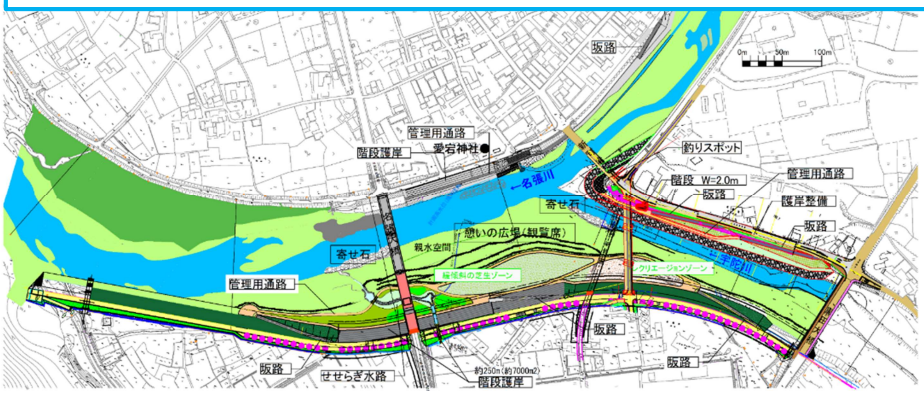
名張市街地の浸水被害の軽減を図るため、名張かわまちづくりと連携して引堤及び河道掘削を推進し、安全度の向上を図ります。また、用地取得を継続して実施していきます。
階段護岸等による水辺空間の整備を推進し、観光振興・地域活性化を支援します。



①名張大橋延伸　進捗状況（R7.3.17撮影）

②黒田橋架替　進捗状況（R7.3.17撮影）

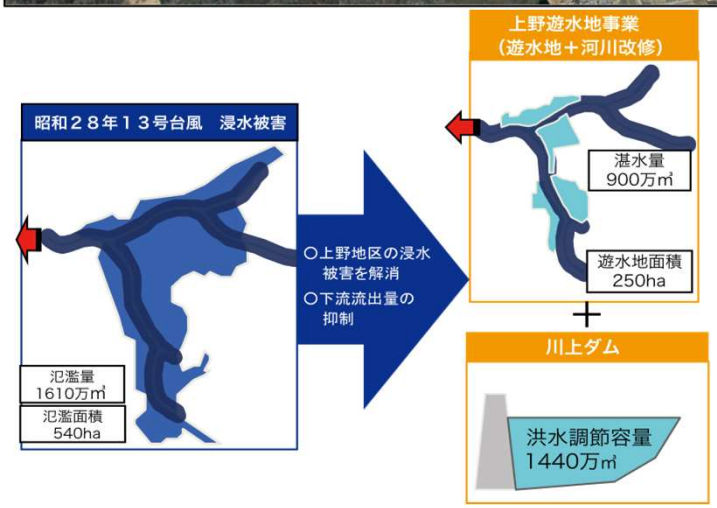
名張かわまちづくり計画
国土交通省：親水護岸、河川管理用通路　等
名張かわまちづくり協議会：さくら並木、案内サイン、地域振興拠点　等
（※詳細設計等により内容が変更となる場合があります）



階段護岸

上野遊水地計画

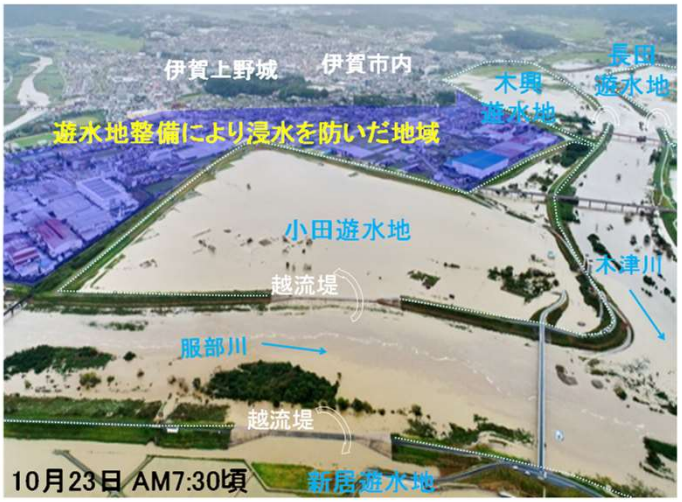
狭窄部上流上野地区の浸水対策として、下流の流量増加を生じる河川改修のみで対処することは困難であることから、上野遊水地と川上ダムを完成させるとともに、木津川、服部川及び柘植川の河道掘削等の河川改修を併せて実施します。



河川名	遊水地名	遊水地面積（ha）	湛水容量（万m³）
服部川	新居遊水地	61.2	206
	小田遊水地	62.2	280
木津川	長田遊水地	55.1	172
	木興遊水地	70.0	242
計		248.5	900

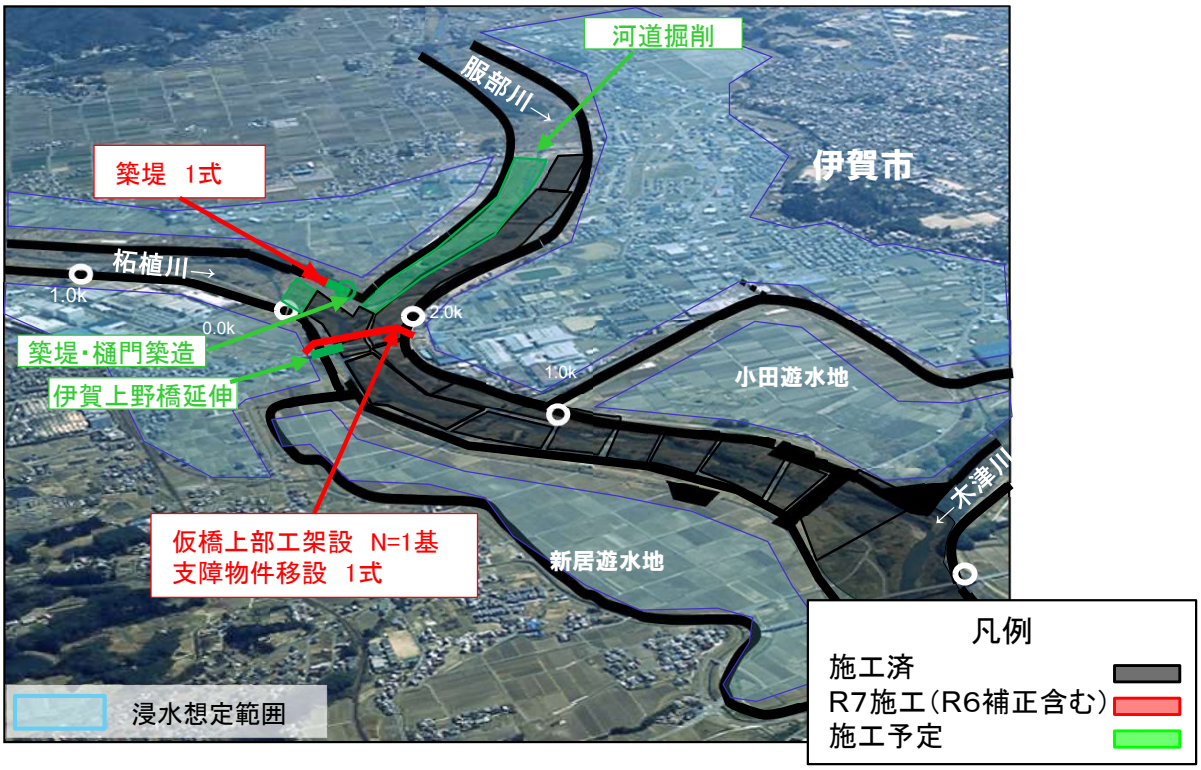
上野遊水地の事業効果

平成27年より上野遊水地の運用を開始し、平成29年台風21号において、木津川及び服部川で、4つの遊水地に越流し、約600万立方メートルを貯留しました。
遊水地の整備により上野地区において約160haの浸水面積、約760戸の浸水戸数の被害を解消できたと推定され、上野遊水地事業の効果が発揮されました。



■令和7年度　木津川上野遊水地　事業予定箇所

河道掘削、三田地区引堤等により、上野地区の治水対策を推進します。



浅子川水門

伊賀上野橋　仮橋上部工

■河川工作物関連応急対策事業
樋門ゲートの無動力化

集中豪雨発生頻度の増加による操作頻度の増加や、操作員の高齢化や担い手不足など、操作員の確保が難しくなってきており、「労力の不足」が課題となっていることから、ゲート操作が不要なフラップ式ゲートへの転換を進めています。

整備前（例）

整備後（例）

朝屋排水樋門　令和5年度改築

安全・安心を持続的に確保するための取り組み

■河川維持管理

洪水の流下阻害となる堆積土砂の撤去や河道内の樹木伐採を実施します。

堆積土砂撤去

樹木伐採

■日常の河川管理
日頃から洪水に備える

木津川上流河川事務所では、堤防をはじめ護岸、管理用通路、樋門等多くの河川管理施設を管理しています。これらが洪水時に必要な機能を発揮できるように日頃から巡視や点検、必要な補修を行っています。

陸上巡視

堤防点検

施設点検

■洪水時の河川管理
洪水からまちを守る

洪水からまちを守るため、河川状態の監視、把握、情報収集、安全に注意しながらの巡視、水門や樋門、排水機場の操作等を実施しています。また、洪水時にどのくらいの水が流れているかを把握する流量観測も行い、洪水の貴重なデータを収集しています。

集中管理センター

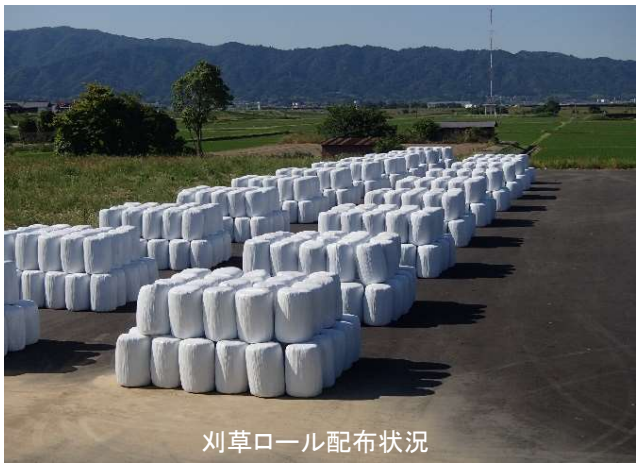
巡視で確認された河岸侵食

洪水時の流量観測

■コスト縮減の取組

刈草ロールの無償配布

地域の方との「コミュニケーション」、「資源循環」、「コスト縮減」を実現するため、継続して刈草ロールの無償配布に取り組みます。



刈草ロール配布状況

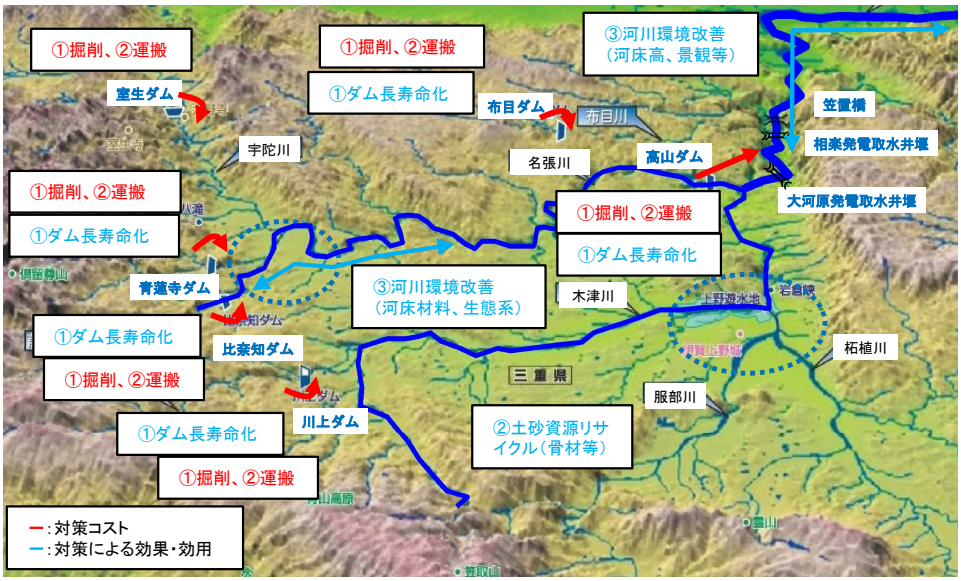
ヤギによる堤防除草

常に除草されている堤防を目指すことを目的に、小田遊水地にてヤギの除草実験を継続して実施します。

ヤギの除草状況

総合土砂管理

淀川水系において、土砂移動の連続性を確保するための方策を山地領域からダム領域、河川領域に至るまで長期的な目標を設定し、総合的に検討を継続していきます。



木津川上流の土砂マネジメントイメージ

河川環境保全や防災に関する啓発活動

地域の方々が参加できる環境学習会や小中学校と連携した河川環境や防災に関する出前講座などに取り組みます。

伊賀 市民夏のにぎわいフェスタでの
水槽・パネル展示（令和6年度）

出前講座（令和6年度）

減災対策協議会（水防災・意識社会再構築ビジョン）

「木津川上流部大規模水害・土砂災害に関する減災対策協議会」にて減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に取組を進めます。

「木津川上流部大規模水害・土砂災害に関する減災対策協議会」（令和6年度）

伊賀市マイ・タイムライン講習会（令和6年度）

河川を介した魅力の再発見

土のう製作や簡易魚道の設置体験について、地域の小学生に参加していただき、水防工法や名張かわまちづくりについて学ぶ活動を実施。

なまず遡上作戦2024（令和6年度）
名張川左岸支川留い川の合流付近にて

下流域の方々に対し、上流にどのようなインフラ施設があるのかを知ってもらうバスツアーを、上下流交流イベントとして開催。

「木津川上流へGO!」バスツアーイベント（令和6年度）

河川レンジャーの活動

良質で効果的な河川の管理・整備を推進するため、住民と行政との連携・協働の橋渡し役として木津川上流管内河川レンジャーを任命しています。

伊賀市内鍵屋の辻での
浸水被害の説明

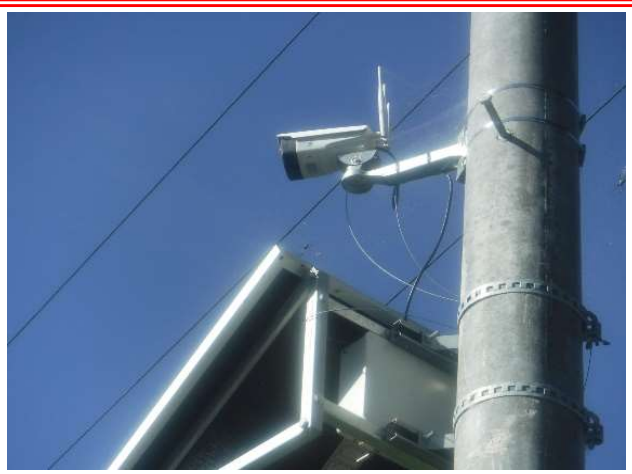
魚の立体塗り絵作成の
ワークショップ

宇陀川の地層調査や
ガーネットの採取体験

情報発信(ソフト対策)の取り組み

危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの運用により、リアリティーのある河川の状況を画像で伝えることで、住民の適切な避難判断を促します。

重要水防箇所の現地点検を関係自治体等と合同で実施(危機管理型水位計設置状況)



簡易型河川監視カメラ設置状況

生活空間である“まちなか”に想定される浸水深等を標識として設置する「まるごとまちごとハザードマップ」の取組を推進しています。このたび、木津川上流河川事務所管内としては、京都府域で初となる浸水深標識を笠置町に設置し、令和7年2月5日に除幕式を執り行いました。

洪水から伊賀市街地を守るべく整備された上野遊水地は、平成27年6月より運用され、**令和7年で運用開始10周年を迎えます。**

木津川上流河川事務所では、上野遊水地の名称、目的を伝え、洪水に対する関心を高め、洪水時の行動や、それに向けた準備を促すなどの一助とするべく、伊賀鉄道新居(にい)駅の副駅名を「伊賀を守る上野遊水地」とし、新居駅の駅名看板や各駅の運賃表等に、この副駅名「伊賀を守る上野遊水地」を表示しています。

木津川上流河川事務所 沿革

当事務所は木津川上流域の砂防事業を実施することを目的として開設され、昭和44年3月まで砂防事務所としてその使命を果たしてきた。この間、昭和39年に河川法が改正され、淀川水系は一級河川水系として指定、同42年5月に木津川上流部の指定区間外区間（直轄区間）が、淀川工事事務所の管轄となった。

その後、同事務所の管理範囲が広範囲にわたるため、業務能率等を勘案し木津川上流部を同事務所から分離して同44年4月以降当事務所で管理することになり、事務所名を木津川上流工事事務所と改め、河川と砂防を担当することになった。

平成15年4月に木津川上流河川事務所と改称した。

平成29年4月より砂防事業を紀伊山系砂防事務所に移管した。

年　月　日	事務所名（工営所・工場・事務所）の沿革及び所在地		
	事　務　所　名	所 在 地	備　　考
明治11年	島ヶ原砂防工営所・棚倉砂防工営所	島ヶ原村・ 棚倉村	
明治21年	伊賀砂防工営所	美濃波田村	明治23年　依那古村 明治24年　島ヶ原村
明治45年	伊賀砂防工場	玉滝村	棚倉砂防工営所が棚倉砂防工場と改称
大正11年4月16日	豊原砂防工場	豊原村	
昭和5年	玉滝砂防工場	玉滝村	
昭和6年4月1日	名張砂防工場	蔵持村	
昭和7年9月1日	河合砂防工場・加茂砂防工場	河合村・ 加茂町	昭和10年3月31日　加茂砂防工場廃止 昭和12年3月31日　河合砂防工場廃止 それぞれ名張砂防工場へ引継
昭和14年	名張砂防工場が 木津川砂防工場と改称	蔵持村	
昭和23年	木津川砂防工場が 木津川砂防工事事務所と改称	〃	
昭和33年4月16日	木津川砂防工事事務所	名張市丸の内 へ移転	
昭和44年4月1日	木津川上流工事事務所と改称	丸之内	庶務課・工務第一課・第二課・３出張所
昭和45年12月	木津川上流工事事務所	名張市木屋町 へ移転	※組織の設置 昭和46年4月　用地官 昭和49年4月　用地課 昭和51年4月　調査課 昭和53年4月　副所長（事） 昭和55年4月　管理課 昭和56年4月　副所長（技）
昭和59年11月	〃	木屋町	事務所新庁舎完成
平成元年5月	〃	〃	※組織の設置 平成元年5月　補償調整課
平成17年3月	木津川上流河川事務所	〃	※組織の廃止 平成17年3月　補償調整課
平成20年3月	〃	〃	※組織の廃止 平成20年3月　工務第一課 平成20年3月　工務第二課
平成20年4月	〃	〃	※組織の設置 平成20年4月　工務課 平成20年4月　品質確保課
平成25年5月	木津川上流河川事務所	木屋町	※組織の廃止 平成25年5月　品質確保課
平成28年3月	名張砂防出張所	木屋町	名張市蔵持町から木屋町へ移転
平成29年3月	木津川上流河川事務所	木屋町	※組織の廃止 平成29年3月　用地課 平成29年3月　名張砂防出張所
	砂防事業を紀伊山地砂防事務所に移管		
平成31年4月	木津川上流河川事務所	木屋町	※組織の設置 平成31年4月　用地対策官
令和2年4月	木津川上流河川事務所	木屋町	※組織の設置 令和2年4月　用地課設置
令和5年4月	木津川上流河川事務所	木屋町	※組織の廃止 令和5年4月　調査課廃止 ※組織の設置 令和5年4月　流域治水課設置

2025年度　木津川上流河川事務所組織図

（令和7年4月1日現在）

事務所長

副所長（事）

副所長（技）

用地対策官

建設専門官

建設専門官

上席専門職

主任指導官

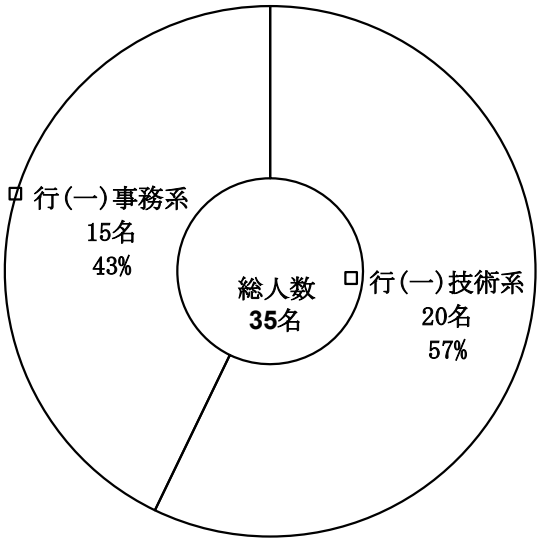
指　導　官

行（一）事務官１５名

行（一）技　官２０名

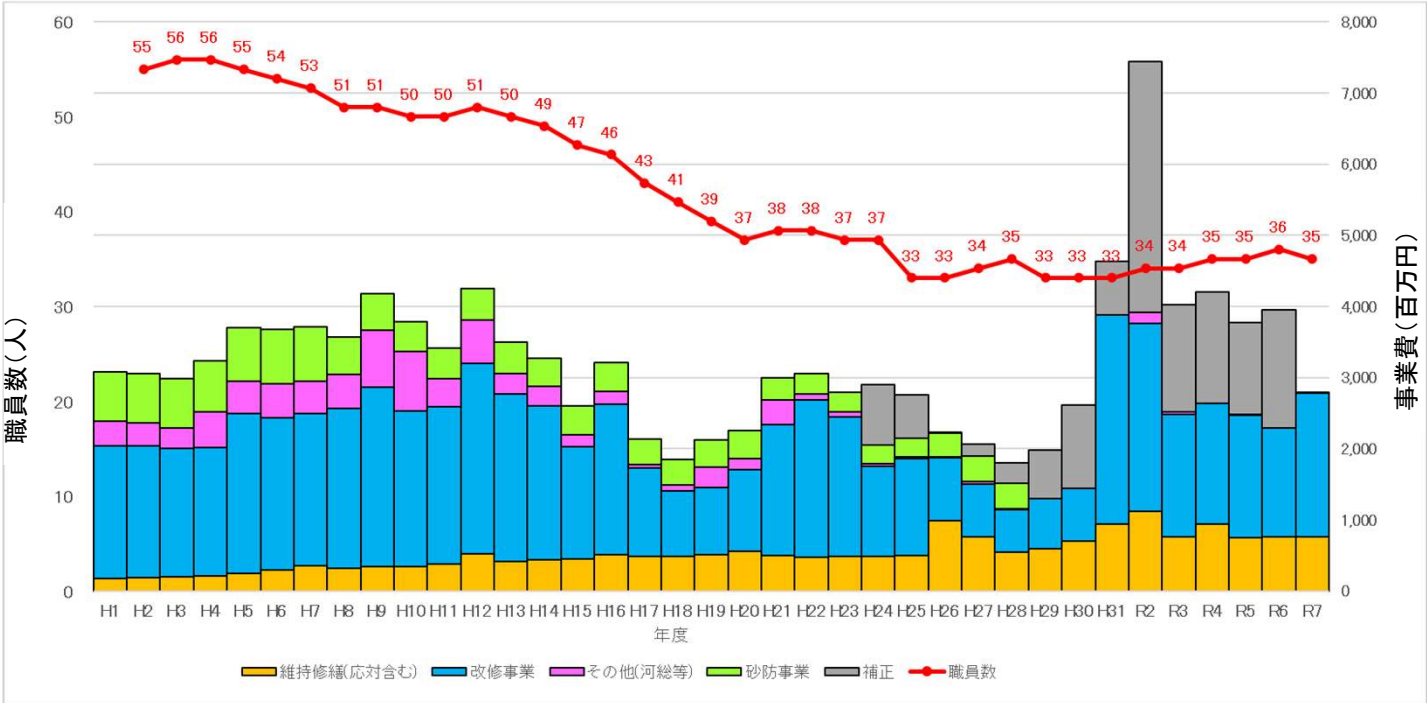
計３５名

- 総務課
  - 総務係
  - 経理係
- 用地課
  - 用地第一係
  - 用地第二係
- 工務課
  - 専門官
  - 専門職
  - 工務係
  - 設計係
- 流域治水課
  - 専門職
  - 流域調整係
  - 流域治水係
  - 水防企画係
- 管理課
  - 専門職
  - 管理係
  - 維持係
- 伊賀上野出張所――管理第一係・管理第二係
- 名張川出張所――管理第一係・管理第二係



2025年度　木津川上流河川事務所 予算

（項）	（目）	河川名　等	事業費（千円） 年度	計			前年度比（当初予算）
河川整備事業費	河川改修費	木津川上流	R6 当初	1,527,245	大規模	119,200	
					一般	1,408,045	
			R6 補正	1,385,000	大規模	630,000	
					一般	755,000	
			R7 当初	2,015,695	大規模	211,760	1.32
					一般	1,803,935	
	河川維持修繕	木津川上流	R6 当初	759,852			
			R6 補正	279,035			
			R7 当初	760,898			1.00
	河川工作物関連応急対策事業費	木津川上流	R6 当初	0			
			R6 補正	0			
			R7 当初	0			
都市水環境整備事業費	総合水系環境整備事業費	名張かわまちづくり	R6 当初	2,000			
			R6 補正	0			
			R7 当初	2,000			1.00
河川等災害復旧事業費	河川等災害復旧費	宇陀川	R6 当初	0			
			R7 当初	0			
合　計			R6 当初	2,289,097			
			R6 補正	1,664,035			
			R7 当初	2,778,593			1.21



MEMO

TEC-FORCE
Technical Emergency Control FORCE
緊急災害対策派遣隊

国土交通省緊急災害派遣隊「TEC-FORCE（テックフォース）」は、大規模な自然災害が発生した場合に派遣され、被害状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧などに取り組み、地方公共団体を支援します。

防災ヘリによる被災状況」の把握

自治体の支援ニーズの把握

公共土木施設の被害状況の調査

■木津川上流河川事務所が保有する災害対策用機械

大規模な災害が発生した際に、被災地の迅速な復旧を支援するため、木津川上流河川事務所から災害対策用機械を派遣します。

排水ポンプ車

照明車

災害対策本部車

■お問い合わせ、相談窓口

木津川上流河川事務所
〒518-0723
三重県名張市木屋町812-1
TEL：0595-63-1611
FAX：0595-64-5040

名張川出張所
〒518-0441
三重県名張市夏見字下川原307-1
TEL：0595-63-3720
FAX：0595-63-3626

伊賀上野出張所
〒518-0825
三重県伊賀市小田町242
TEL：0595-21-2403
FAX：0595-21-2411

木津川上流河川事務所
https://www.kkr.mlit.go.jp/kizujyo/index.html

川の防災情報
https://www.river.go.jp